

# 沖縄県立図書館評価指標に基づく図書館評価(対象年度:令和元年度)

令和3年2月2日  
沖縄県立図書館協議会

## [ 評価 ]

令和元年度対象の図書館評価について、「入館者数」、「蔵書冊数」、「貸出冊数」、「レファレンス件数」に基づき評価する基本指標の評価値は、前年度の「4.5」に対し、「1.5」と評価値を大きく下げたが、主な要因として、目標値設定にあたっての比較対象とした期間が、新館移転直後の3ヶ月を基準としたことが考えられる。オープン直後は利用が多く、開館2年目あたりから数字が落ち着いてくるものと思われることから、今後の安定的な運営を期待したい。

また、蔵書冊数については、旧八重山分館資料約5万冊を八重山地区の図書館に譲与したことに伴う除籍による冊数減により、目標が達成できなかったとのことだが、担当課との綿密な調整等により、事前に目標冊数に反映することも可能だったと考えられる為、留意いただきたい。

個別指標のうち、「(1)広域型図書館」については、3月に新型コロナウイルス感染症の拡大による影響を受けたのにも関わらず、「市町村巡回車運搬冊数」、「一括貸出冊数」といった項目では、目標値を大きく上回る実績を上げており、コロナ禍においても発揮しうる強みと捉えられるのか、今後の推移にも注目したい。

「(2)課題解決型図書館」については、昨年度の評価の際、指標とのミスマッチが指摘されていたところだが、今回も実績値が把握できない項目が発生しているため、新たな評価では、目標との関連性を考慮の上、適切な評価ができるよう進めていただきたい。

「(3)琉球・沖縄関係資料の中核的図書館」のうち、「郷土資料の受入冊数」について、目標値を大きく下回り、評価は「1」となっているものの、当該年度の寄贈資料については登録済みであり、収集はしたが登録に至っていない資料の作業が進まなかったことによるものであり、今後、そういった資料の登録作業にも力を入れて進めていただきたい。

「(4)電子図書館」に関して、「総合目録システム参加館数」について、WebOPACが整備されている市町村立図書館については、ひととおり参加が完了しており、新規開館がなければ増加が困難な頭打ちの状態となっていることを考慮すると、当初の目標は達成できたものと思われる。今後は、新たな目標を設定し、取組を進めていただきたい。

全体として、現在の評価手法は、基準値が毎年の実績に応じて左右されることや、目標値に無理のある数値が設定されることがある等の問題点が明らかになっており、新たな評価手法を検討する際には、長期的な視点を取り入れる等、改善に取り組んでいただきたい。

## [項目別達成度評価]

### 1 基本指標

番号	提言事項	具体的な指標	評価	基本指標評価	
					評価
1	県民の知識要求に対応できるような確かな資料の収集・整理・保存に努め、その利用促進を図る。	・入館者数	1	・目標値設定の際の基準としたH30年度実績は、開館直後の3ヶ月にあたり、開館記念イベントの開催等による入館者の大幅な増加があった(約2,200~3,000人/日)。しかし、平成31年4月以降は、約1,800~2,400人/日にとどまった他、令和2年3月には新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、臨時休館した他、以降も外出自粛等の影響があり、入館者数、貸出冊数、レファレンス件数ともに目標値を下回ることとなった。 ・蔵書冊数については、旧八重山分館資料約5万冊を八重山地区の図書館に譲渡したことにより、目標値を達成することができなかった。	1.5
2		・蔵書冊数	2		
3		・貸出冊数	2		
4		・レファレンス件数	1		

## 2 個別指標

### (1) 広域型図書館

番号	努力点	区分	推進項目	具体的な指標	評価	努力点別評価		基本方向別評価	
							評価		評価
①	WEBサイトの充実	ア	レファレンス事例の発信	・レファレンス事例のデータベースへの掲載件数	3	3.0		3.0	・市町村巡回車の取扱い冊数や一括貸出冊数で目標値を大きく上回ることができた他、移動図書館についても概ね目標値を達成できており、市町村立図書館等の支援については、順調に推進できた。WEBサイトの充実についても、概ね目標値が達成されており、今後も着実に推進していきたい。
			高度なアクセシビリティの確保(利便性の確保)	・沖縄県立図書館HPアクセス件数及びTwitterフォロワー件数	3				
②	市町村立図書館を通じたサービスの提供	ア	市町村立図書館への資料配送及び市町村立図書館間の相互貸借を支援する物流システムの構築	・市町村巡回車運搬冊数(取扱い冊数)	5	4.0		3.5	
				・H30年度から巡回業務を外部委託にし、それまで隔週実施だった運搬を毎週(月4回)実施としたことで、相互貸借サービスの利便性が増したに加え、H31は、県立図書館からの貸出が通年で実施できた(H30:1,656冊→R1:3,179冊、ただし、県外分も含む)ため、目標値(前年度実績と同程度)を大幅に上回ることができた。					
				・一括貸出は、移転時のサービス停止期間を経て順調に利用が伸び、目標値(H30年度(新館開館以降)と同程度)を上回った。					
				・移動図書館は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の為、3回が中止となったものの、開催回数は目標値を達成することができた他、貸出冊数、も概ね目標値(H29の10%増)を達成することができた。					
エ	離島や遠隔地の市町村立図書館との共同事業の実施	・一括貸出冊数	5						
		・移動図書館貸出冊数	3						
		・移動図書館開催回数	3						

### (2) 課題解決型図書館

番号	努力点	区分	推進項目	具体的な指標	評価	努力点別評価		基本方向別評価	
							評価		評価
①	市町村立図書館及び図書館未設置町村への支援	ア	市町村立図書館の職員を対象にした研修計画の策定と実施	・市町村立図書館職員を対象にした研修会開催回数	4	4.0	4.0	3.7	・4つの指標項目のうち、「市町村立図書館職員を対象にした研修会開催回数」、「子ども読書活動推進室の利用回数」、「沖縄県図書館協会主催講演会及び研修会への参加人数」の3つの項目で目標値を達成でき、全体としても、目標を概ね達成できた。 ・一方、「沖縄県読書推進運動協議会との連携行事への参加人数」については、行事内容が変更され人数が把握できなくなる等、指標設定時点から取組内容の変化等が見られるため、指標の設定内容等については、見直しを行う必要があるものと思われる。
②	地域活性化へ向けた支援活動の充実	ア	子ども読書活動推進及び文字・活字文化の振興に関する市町村立図書館への情報提供と連携事業の実施	・「子ども読書活動推進室」の利用回数	4	3.3		3.7	
				・沖縄県読書推進運動協議会との連携行事への参加人数	1				
				・危機管理・障がい者サービス等、参加者の関心が高いテーマの研修を実施したこと等により、参加者が増加し、目標を達成することができた。					
コ	沖縄県図書館協会等との連携・協力	沖縄県図書館協会主催講演会及び研修会への参加人数	5						

(3) 琉球・沖縄関係資料の中核的図書館

番号	努力点	区分	推進項目	具体的な指標	評価	努力点別評価		基本方向別評価	
							評価		評価
①	郷土資料コレクションの形成	-	-	・郷土資料の受入冊数	1	購入資料の減に加え、新館移転後の新システム導入に伴い、登録業務に係る手順等の定着や移行データに係る書誌情報の修正に時間を要した為、寄贈資料の整理が進まず、目標値としたH27～H29実績の平均値に達しなかった。	1.0	2.7	・令和元年度は郷土資料の受入冊数が例年より少なくなり、大きく目標値を下回る結果となったが、修復や複製本の作成については、目標値の20点を達成できたため、全体としては、概ね目標値を達成した。
				・デジタル郷土資料の公開点数	3	・デジタル化郷土資料の公開点数について、30件の資料を追加し、目標値(前年度実績値+過去3年分の平均増加数)を達成することができた。			
②	郷土文化の保存と次世代への継承	ウ	デジタル化郷土資料の公開と文化事業の実施	・修復点数	5	・修復については、概ね例年通りに実施することができ、目標値である20点を達成することができた。	4.3		
				・複製本作成冊数	5	・複製本作成については、修復に伴うものに加え、「琉球・沖縄の知と心」国際発信事業により収集した移民資料も作成した為、目標値である20冊を大幅に超過することができた。			
		イ	貴重資料保存計画(状態調査・修復・保存措置・複製)の策定						

(4) 電子図書館

番号	努力点	区分	推進項目	具体的な指標	評価	努力点別評価		基本方向別評価	
							評価		評価
①	付加価値の高い情報発信	ア	デジタルコンテンツの作成・発信	・デジタル郷土資料の解説点数	3	・移転に伴う管理システムの変更のため、作業が進まず、目標値(前年度実績値+過去3年分の平均増加数)を達成することができなかった。	3.0	3.0	・デジタル郷土資料の解説点数、総合目録システム参加館数の2つの推進項目とも目標値を達成することができなかった。 ・総合目録システムの参加館数については、県内公共図書館の参加が概ね完了しており、図書館の新設等がない年には拡大が難しくなっており、指標設定項目の見直しが必要になっていると思われる。 ・また、両項目とも累積値による評価となっており、評価点が実態を反映しにくくなっているため、評価方法等の見直しが必要であると考えられる。
				・総合目録システム参加館数	3	・参加可能なWebOPAC公開館がなく、H31年度は参加館の増加がなかった。			

総合評価	
<p>・基本指標について、「入館者数」、「貸出冊数」、「レファレンス件数」の目標値を、開館直後以来館者が多かった平成31年1月～3月の実績ベースに設定した結果、新型コロナウイルス感染症拡大の為の臨時休館の影響も相まって、目標値を大きく下回ることとなった。また、前年度実績の3%増を目標とした蔵書冊数についても、旧八重山分館資料約5万冊を八重山地区の図書館に譲与したことにより除籍した結果、目標値を下回ることとなった。当該指標については、数値による機械的な評価で運営状況を把握することが困難であるため、新たな評価を実施する際には、指標の設定に留意が必要である。また、レファレンス件数については、窓口委託業者と定義の共有ができておらず、件数に計上されていないものがある等、評価指標とする際の条件整備ができていない為、今後改善する必要がある。</p> <p>・個別指標の各努力点については、市町村支援に関する項目等を中心に、着実に取り組みがされており、概ね順調に運営されたと評価できるが、各指標については、設定時点からの状況変化等により、取組の成果が確認できなくなっているものや、数値目標の増加余地が少なくなっているもの等が見られるため、適切な活動評価となるよう見直しが必要である。</p>	2.9